

令和4年度 第1回学校運営協議会 議事録

- 1 日 時 令和4年4月19日（火）午前9時30分から午後12時5分まで
- 2 出席者 玉木健治様（地域コーディネーター） 鍋田正明様（中村町自治会長）
大橋典子様（PTA会長） 本田道子様（ありんこの里管理者）
望月雄司様（静岡市大里生涯学習センター長）
- 欠席者 望月映延様（JA組織広報部長）
枝 賢一様（小糸製作所人事部企画課）
- 3 場 所 会議室

4 校長挨拶

学校運営協議会は今年度から静岡県の特設特別支援学校で設置されることになった。今回は、本校の教育目標や今年度の学校運営方針について御了承いただくことを目的としたい。本校は今年度5回の協議会を予定している。委員の皆様にはたくさんの御意見をいただきたいと考えている。

5 学校運営協議会委員の任命

校長より任命状の授与。

欠席されたお二人については職場の御都合により欠席されているため、改めてお渡しする。

6 自己紹介

- ・ 玉木様 10年前まで本校の校長を務めていた。コーディネーターという役職をいただいたが、皆様から御意見をいただきたいと思っている。
- ・ 鍋田様 3期6年目の自治会長となった。地域にある学校に貢献できたらと思っている。
- ・ 大橋様 保護者としての意見を伝えていきたい。
- ・ 本田様 聾学校の卒業生の方がいるが、皆、頑張っている。施設側の意見として伝えていけたらと思っている。
- ・ 望月様 文化振興財団の職員である。今回は、地域関係者として呼んでいただいたと聞いている。自身も地域に住んでいるため、地域の学校に貢献できたらと思っている。
- ・ 欠席された委員の方の御紹介（副校長より）
- ・ 校内職員の自己紹介

7 学校概要の説明

（100周年で作成した学校紹介VTRでの御紹介）

8 校内参観

9 説明・協議（司会：玉木様）

(1) 学校運営協議会制度について（副校長）

【資料P2】 県立高校・特支に学校運営協議会制度を入れている学校のことをコミュニティスクールと呼んでいる。

【資料P3】 学校運営協議会は、学校と保護者や地域の皆様が力を合わせて学校運営に取り組むものだが、学校運営の責任者は校長であり、学校運営について決定や実施するもので

はないと手引きにも書かれている。さっくばらんに皆様から御意見をいただくことができたらと考えている。ただ、御意見をいただくことだけがこの会の目的ではない。

【資料P4】のイメージ図にもあるが、学校と地域等が課題解決に向けた協議の場である。学校だけでなく、ここに参加された皆様にとってもメリットになるような取組のアイデアなどを考える会となるようにしたい。

(2) 令和4年度学校経営計画について（校長）

この協議会はざっくばらんな会にしたい。静岡県や日本が目指している共生社会が実現できるような話ができればと考えている。

【資料P7】令和4年教育行政の基本方針に基づいて、人それぞれに異なる価値観や多様性の尊重、学校や地域との連携などを進めていく。また、特支については、ICTや乳幼児教育の推進、読書活動の推進、「特別な支援が必要な教育の充実」「特支のセンター的機能としての役割」、コミュニティスクールの設置・運営の充実などが書かれている。

【資料P8】教育推進体系図についての説明

「命と人権を守る学校」は当たり前ことだが基礎となっている。校長会では大規模災害時にどのような対応をとっているか地域との連携の仕方などが話題になっている。

【学校グランドデザイン】の説明

- ・ゴシック体になっている4点が今年度の重点である。
- ・ICTについては、一人一台端末の使用やコロナ禍で登校できなくなった児童生徒に対するリモートでの授業も行っている。他の特別支援学校に比べると進んでいるものの、ICT活用を通して何を身に付けるのかという視点を大事に指導していかなくてはならないと考えている。
- ・キャリア教育については、本校は中学部までしかないため、先を視野に入れた進路指導が弱い所だと感じている。今年度は強化していきたい。幼稚部から中学部までの流れを全教職員が理解して指導し、進路についての情報を児童生徒や保護者に発信できるようにしていきたい。
- ・「つながる学校」については、本校は通級指導教室もあり地域の学校と繋がること、また早期療育も行っており、病院などとの繋がりが必要であり、かなり外部との繋がりが求められている学校である。
- ・「防犯・防災」については周りにやってもらっただけではなく、自分の身は自分で守るように、年齢に応じた行動の仕方を指導したい。自分のことを考えて行動できる力を身に付けられていれば、将来、地域などに貢献できる人に育つと考える。
- ・「対話的・協同的な学び」については、学びの見取りや学習評価について研修をしながら授業づくりを行っている。また、聴覚障害教育を行う上で大事な点をまとめた「スキルちゃん」を活用し、教職員で共通理解を図っている。
- ・通級指導教室については、今後もっとニーズが高まっていくことが予想されるため、体制を整備しているところである。
- ・「特別支援学校のセンター的機能」については、聴覚障害の支援に限らず、様々なニーズに応じられるよう、特別支援コーディネーターを中心に対応していきたい。高校への支援も求められているため、幅広く対応できるようにしていきたい。

(3) 第2回以降の協議内容について

計画後に校長の出張が入ったため、御案内した日程から変更し、6月15日の開催となる。

(4) 質疑応答及び意見交換

【校内参観を通して】

・ 玉木様

子どもたちの発音の良さに驚いた。早期療育の効果、補聴機器の進化や補聴援助システムの充実などによるものだと思う。ただ、それに甘えてはならないと思っている。特に今はマスクをしているから黒板を向きながら話してしまっているが、聾学校の教員としての基本は徹底してほしい。また、新しい先生が12人もいると聞いたが、板書もしっかりとされていたし、丁寧に指導されていた。子どもたちの数が減っていることは、選択肢が増えたことで仕方がないと思うが、この学校がセンターとしてどうしていくかが大事なのではないかと思う。聾教育は無くならない。通常の学校で聾教育の大切さについてしっかり伝えられる教員の育成が課題になっていくのではないかと感じた。

・ 大橋様

先生方の大変さを感じた。ただ、忙しさの中で起きてしまっているゴタゴタが最近あった。大事なのは、子どもがどう感じるかだと思うので、子どものことを大事にしていきたいと思う。

・ 本田様

施設にいる方と少し様子が違ったので、子どもたちの言葉がしっかりしていることに驚いた。人工内耳を入れている方が普通校に進んだものの、就職後に手話サークルに来て自身の悩みを相談していることがある。学校に、就職した後も悩みを相談できるようなシステム・場があれば良いと感じた。

・ 玉木様

沼津聴覚特別支援学校では高等部卒業後についてもフォローしているが、なかなかメンタルでの弱さがあるようだ。小糸製作所の枝委員に卒業生がどのように働いてらっしゃるのか聞いてみたかった。先生方をお願いしたいのは、まずは職場にいる聴覚障害の教員を大事にしてほしいということだ。聾の先生方は、聾学校の子どもたちにとって、身近な目標となる存在である。

・ 校長

就職されている方の相談は、今のところ学校には入っていないと思う。メンタル面の弱さは、校内の様子を見ても感じることもある。子どもが少ないため、教員がいろいろなことに気付き、先回りしてやってあげてしまうことがある。また、子どもたち自身はたくさんの意見に揉まれ、自分と違う考えを受け入れる経験も少ない。そんな子どもたちが普通校や就職をしていくため、メンタルが弱くなってしまわないかと思う。だからこそ、交流教育をもっと積極的に行っていないかと感じている。

・ 鍋田様

学校とは夏祭りの中止などがあったが、地域でもコロナ禍でなかなか付き合いが減ってしまっている。近くにいるのに無視してしまうことになって、孤立化してしまった人もいる。学校の子どもたちにも自分の良さを発信しながら、社会との繋がりが持てる人になってほしいと願っている。繋がりはとても大事だと思っている。だからこそ、もう少し地域と学校との繋がりが持てる機会があったらと思う。

・ 玉木様

今はコロナ禍で交流の難しさはあると思うが、地域に学校からの情報発信をもっと積極的にしていくべきなのではないか。

・ 鍋田様

学校だよりでも学校の様子が分かるので、紙での交流でも情報がほしい。

- 望月様
補聴器と人工内耳の違いなど、まだまだ分からないこともあるが、参観を通して学校が生徒に寄り添っていることを感じた。例えば幼稚部では、幼稚園での学びに加えて聴覚障害に応じた学びをしていくことは子どもたちにとって負担になっていることもあるのかと感じた。また、少人数で大人の目が向いてしまうため、子どもたちが逃げられない状況であることも大変だと感じた。地域との交流も持てるようにサポートできればと思っている。
- 大橋様
我が子がずっとマンツーマンで育っている。参観日は子どもと自分（母）と二人しかおらず、自分が緊張してしまう位だが、本人は大人が求めている考えを考えて発言してしまい、自分の思いと離れていることで負担に感じることもあるようだ。
交流は教員の人数の関係で年3回行けていたのが、年2回に減ってしまった。交流校は歓迎してくれているが、全員が平等に交流を行うことができるようになった反面、できなくなったことがあるのは残念に思う。
- 玉木様
沼津聴覚特別支援学校は、運動会が地域の学校との共催で、校歌もそれぞれの学校をお互いに歌っている。なかなか人数が減っていくと学校として交流していく厳しさもあるのかもしれないが、交流の機会は大事にしてほしい。就職後の交流や様子についてはどうなのか知りたい。
- 副校長
小糸の委員の方に連絡を取った時に、聾の方同士でのコミュニティができているようだった。雇用の職種も製造業だけではなく、サービス業などいろいろと広がっているようだ。
- 玉木様
今はタブレットの画面を通じて仕事の指示が出るようだ。直接の指示ではないので、文をしっかりと読み取る力も必要となってくる。
- 校長
今後も立場の違う皆様とざっくばらんに話ができるような学校運営協議会になるようにしていければと考えている。

10 今後の予定（副校長）

本日、2回目以降の開催についての通知を出した。2回目以降は通知を出さないため、今回の通知を御覧いただきたい。何か変更があれば連絡する。

御都合等で何か出欠の御連絡がある場合は、地域コーディネーターの玉木様まで御連絡いただきたい。